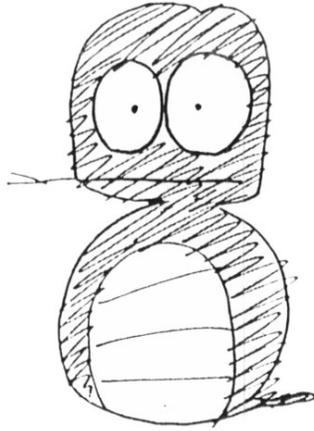


あけまして おめでとう ございます



いよいよ 創立百十周年の年 さあ もう1枚 脱皮しましょう

「ツチノコ共和国パスポート」より転載

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311

笠岡大教会創立百十周年

三年千日スローガン

論達を實踐し、をやの理を戴こう

本年の實踐項目

おさづけの取り次ぎ

初代上原さと様が、笠岡へお帰りになつて靈教を頂いたのは、金平糖の御供であつた。初代は、身上の人に御供を渡し、奉祀していた神様に添え願ひをして次々と御守護を頂いた。明治二十一年、おちばへ帰りおさづけを拝戴してからは、おたすけに一層の拍車がかかり、明治二十四年笠岡支教会が設立されたのである。

陽気ぐらし講座と百万軒にをいがけ

初代は、称念寺橋のたもとの借家に上原家を構え、世すぎの道として小間物屋を営んだが、おたすけが次々とあがるようになって、朝早くから夜遅くまで、笠岡の街中は言うに及ばず、新山・追分・金浦・陶山・茂平、あるいは、園井・大島と足を運んだ。笠岡の道は歩いて歩いた道と初代は後年話したが、私たちが、その歩みをこの一年を通して我が物としたい。

一万人のおちばがえり

笠岡の別席団参は、教内で有名であつた。また私達の信仰の源は、おちばである事を考えれば、おたすけに歩いた足で、しっかりとそれ以上におちばに運ばして頂きたいものである。明治二十七年、御本席のご来臨が頂けたのも、初代がおちばへおちばへと交通不便の中、運んでいた賜である事を思えば、私たちは、おちばへ運ぶことによつて、見えない大きな徳を頂戴できるのである。

立教百六十四年の新春のお慶びを申し上げます。

昨年は大変ご苦勞さまでした。創立百十周年に向かう三年千日二年目の年として「つとめに専心」「百万軒をいがけ」「陽氣ぐらし講座開催」と、論達にお示し頂く「実動」にお忘えさせて頂きたいとの思いに加え、一年目より一步前進した「実動」を目指して歩ませて頂きましたが、「実動」に相応しい又二年目に相応しい年であったように思います。改めて皆様のお心寄せお力添えに御礼申し上げます。

さて本年は創立百十周年の年であり、三年千日仕上げの年であります。十一月二十九日の記念祭に向け、昨年以上に「実動」に拍車をかけてまいりたいと思えます。つきましては、もうすでに「存じのように」おさづけの取り次ぎ「陽氣ぐらし講座と百万軒をいがけ」「万人のおぢばがえり」の三つを実践項目に掲げ、「実動」に邁進させて頂きたいと思えます。そしてその事は、昨年十一月二十一日の決起の集いの時に発表し、その後の役員・直轄教会長会議の時に改めて申し上げて、月毎に項目別の実施数を報告するようにとお願い申し上げます。

たのでありますが、その後「数」の事について数人の方から質問がありましたので、この紙面で答えてみたいと思えます。それは「数にこだわるとおさづけの理が軽くないか？」というものでありました。結論からいうと答えは「軽くならない。」であります。というよりも厳密に言えば「理に重い軽いは無い。」のであります。辞書によれば「理」とは不変の法則。原理とあります。つまり変わらないものでありますから、重くも軽くもないのであります。ところが仮席（おさづけを拝戴した後の席。前席、中席、後席とある。）で服装についてお話しさる中に「おおよそ服装を正す事は一般の人間としての礼儀であります。殊におたすけは私用ではなく……、おさづけを取次がせて頂く重い御用をつとめるのでありますから、尚更理を軽しめぬよう……、普通の服装であっても、理を重んじ……。」とあります。又取次の注意として「心安い間柄やとて、又始終側に居るからというて、何遍もおさづけを取次ぐようなことをしては、尊い理を軽く取り扱うことにな……。」ともあります。この事からどうも重い軽いは理そのものではなく、それを

扱う人の心にあるといえます。とするならば、理を重んじ多くおさづけを取次げば取次ぐ程、おさづけの理は重くなると言えるのです。仮席中に「人様をおたすけさせて頂く為にお渡し下さるこのうの理であります。従っておさづけは、たゞ頂戴して結構であったというだけで終わってはならないのであります。一人でも多くの方にこれを取次いで、おたすけをさせて頂くところにその尊い理が生かされるのであり、我が身も結構をお見せ頂くことが出来るのであります。」とあります。どうぞ一人でも多くの人におさづけを取次がせて頂きましょう。

数にこだわるなど言われますが、私は決して数にこだわっているのではありません。こだわっているのは「実動」であります。本当に数にこだわっているのは、数にこだわるなど言う人自身だという事に一日も早く気付いて、「実動」に邁進して下さることをお願い申し上げます。大きく成人できるとさせて頂きます。大きき成人できると致し申し上げます。

笠岡大教会長

上原理一

立教164年 笠岡大教会 年間行事 予定表

部会 月	全体行事	ひのきしん	国内布教部	海外伝道部	婦人会
1	4~18 直轄教会春季大祭参拝 20 年頭会議	11~20 直属ひのきしん特別隊 25~27 春季大祭詰所受入			
2	2~15 部内巡教	16~28 本部食堂(直2ブロック)	28・3/1 修養科修了講習会		21~22 委員研修会
3	2~15 部内巡教				
4		11~20 直属ひのきしん特別隊 16~20 教祖ご誕生祭詰所受入	13~15 教会長おやさと講習会第3次		19 婦人会本部総会 午前 9:30
5	4~18 直轄教会定期巡教	1~15 本部食堂 (上府ブロック1名、 福山ブロック1名)	13 ひのきしんデー 16~18 教会長おやさと講習会第8次 28・29 修養科修了講習会		
6			23・24 布教所長成人研修会		
7		16~31 本部食堂(高層ブロック)	1~3 教会長おやさと講習会第13次		
8	26~4 こどもおぢばがえり 26 110周年祈願おぢばがえり	25~4 こどもおぢばがえり 詰所受入	28・29 修養科修了講習会 28~30 教会長おやさと講習会第16次	5~7 英語講習会	18・19 委員部長後継者講習会
9			1~30 布教推進強調月間 14~16 教会長おやさと講習会第19次 28~30 にをいがけデー		22・23 こかん様に続く会
10	4~18 直轄教会秋季大祭参拝	1ヶ月 本部保安(2名) 1~15 本部食堂(島根ブロック) 24~26 秋季大祭詰所受入			
11	29 創立百十周年記念祭		28・29 修養科修了講習会		3 第22回女子青年大会 (本部)
12	22 年末大掃除	21 献血ひのきしん 27 詰所餅搗			◎支部例会(毎月5日午前10時) ◎直轄委員部長連絡会
備考	◎部長会議 毎月29日 午前10:00 ◎役員会議 毎月29日 午後 2:00 ◎直轄教会長の集い 毎月20日 午後 2:00	註:ブロックの区分けは 直1:鶴山~明石市 直2:久松、東城~総備 上府:上下、府中市		◎月例勉強会 ◎『英文かさおか』発行 ◎海外よびばく月報	(毎月次祭後) ◎女子青年例会日 (毎月第4日曜日) ◎ひまわり会(毎月3日)

部会 月	青年会	少年会	学生会 学生担当委員会	輸送部	雅楽部
1				25~27 春季大祭参拝	
2					
3			28 春の学生おぢばがえり (直属アワー)		
4	21・22 部属分会委員長研修会	31~3 鼓笛バンド講習会 29 少年会笠岡団総会		17~20 教祖ご誕生祭団体	
5			6 新入生歓迎会(おぢば) 21 学生層育成講習会		
6	1ヶ月ひのきしん隊	21 縦の伝道講習会			
7				こどもおぢばがえり 26~29 → 高層、久松 29~1 → 直轄1・2、福山 1~4 → 列車団体以外	
8		22~24 野外錬成会(キャンプ)			
9	2~9 布教推進週間				
10	27 本部青年会総会			24~26 秋季大祭参拝	
11			25 学生会親睦会(おぢば)		
12					
備考	◎大教会ひのきしん 毎月19日 午前9:00~				◎練習:毎月次祭前日 夕勤後 ◎雅楽練習:毎月次祭日 夕刻

勇んで仕上げの年を

110周年実行委員長 田中 一之

「論達を實踐し、をやの理を戴こう」とのスローガンのもとに、二年前すなわち立教百六十二年年頭会議に於いて、大教会創立百十周年記念祭と三年千日活動のお打ち出しを頂きました。まず一年目は「ためらいをすて勇んで百万軒」と、そく論達の実動に移り百万軒にいがけを達成させて頂いています。

昨年は第二年目にあたり、「つとめに専心」「百万軒にいがけ」「全教会で陽気ぐらし講座開催」の三つの実践項目を合い言葉に励ましていただきました。そして皆様方のお力添えで、百二十万軒を越える家庭に神名を流すことが出来ました。陽気ぐらし講座も百四十会場を越える御守護を頂いています。更に昨年十一月二十一日に行われた決起の集いでは、八百名が心一つに十二下りのてをどりをつとめ勇ませていただきました。そして大教会長様より、本年仕上げの年の実践項目を発表頂いています。

即ち「おさづけの取り次ぎ」「陽気ぐらし講座と百万軒にいがけ」「一万人のおちば帰り」であります。

おさづけの取り次ぎにつきましては、それぞれ教会ごとに話し合い、心を定め勤めさせて頂きた

く思います。教会で目標回数を定め、それに向かつて一手一つにつとめるところもあれば、毎日一回のおさづけの取り次ぎを目指す等いろんなケースがあると思います。

私事になりますが、今年の元旦祭の後「毎日一回のおさづけの取り次ぎを目指して頑張りましょう」と挨拶をしました。

話した後ふと自分自身のことについて思いを巡らしました。一日元旦祭、二日私方の教会の年頭会議、三日広島教区年頭会議、四日日本部年頭会議、五日六日おちばでお節ひのきしん、七日広島で会合、九日本部神殿奉仕のため八日には天理へ、その後大阪で慰霊祭、東京へ巡教、更に年祭と考えると、十五日の祭典までは、ほとんどおさづけの取り次ぎが難しいことがありました。

「二日一回おさづけの取り次ぎを」とみなに話しておきながら自分が出来ないのは、まったく申し訳ないとの思いから、お詫びに夕食を抜く心を定めました。

心を定めた元旦の昼前のことです。昨年十二月結婚したよふぼくが新嫁と父親を連れて挨拶にやってきました。見ると父親は半身が不自由な方でした。天理教は全く始めてでありましたが、早速おさづけを取り次ぐことが出来ました。

不思議なことに、それ以来一月十四日現在に至るまで、毎日おさづけの取り次ぎが続いています。四日に本部年頭会議のため天理に帰ったときのことで。その夜遅く、おちば帰りしていた五十才

のよふぼくが、脳内出血のため詰所で倒れ、救急車で憩家へ入院されています。翌日朝食堂で駆けつけた娘さんから話を聞き、五日六日とお節ひのきしんがすんだ後、おさづけの取り次ぎに通いました。すべて昏睡状態の中でのことです。七日広島で用を済ませ、再度天理に帰り、九日本部神殿奉仕の合間を縫って憩家におさづけの取り次ぎに行きました。部屋には誰もいなく、床が片づいており、一瞬ドキッとなりました。看護婦に聞くと今食事をしてのことです。見ると病棟の受付前のホールで車椅子に乗り自分でスプーンを使い食事をしている姿に我が目を疑いました。そして感激の内におさづけを取り次がせて頂きました。

「よふぼくは先ず、日々、月々のおつとめにをやの理を戴き、また、病む人に進んでおさづけを取り次ぐとともに、原典に親しみ、をやの思いを求めて、教えに基づく生き方を心掛けよう。」との論達の思召を實踐させて頂きました。

今の句親神様、教祖が特別にいがけ・おたすけをせよ、と強くおっしゃっているのです。

にいがけをしないで教会内容の充実はありません。いんねんの切り換えも徳積みの信仰もありません。初代を始め先人の先生方が、がむしゃらに、にいがけに歩いてくださったおかげで今日の天理教の姿があり、私たちは今の時代に生かされています。

よふぼくお互いが、パンフレットをポストに入れて歩くだけでも立派なにいがけであり、親神

様、教祖が最もお喜びくださる信心であると思ひます。

百万軒にをいがけと陽気ぐらし講座、今年も頑張らせていただきますよ。

更に一人のおぢばがえりには、笠岡につながる

る全よふぼくが友をさそいおぢばに帰らせて頂きたいものとも思ひます。

「共々にひとだすけに努め、互いに手を携えてせかいのふしんに勤しむまでに導く。これぞ教祖の道具衆としての至上のつとめであり無上のよろこ

びである。」と論達で真柱様がお述べ頂くように、理につながる全よふぼくが、十一月二十九日大教会創立百十周年記念祭を目指し決起するよう丹精のほど宜しくお願いいたします。

仕上げの年の始めに当り 「決起の集い」を振り返る

去る十一月二十一日、創立百十周年記念祭を一年後に控えた大教会では、八百余名の参拝者を集めて、十一月月次祭に引き続き、「創立百十周年決起の集い」が開催されました。

祭典時間を三十分繰り上げ、九時より開扉・献饌が行なわれ、祭儀式・おつとめも滞りなくつとめ了えられた後、大教会長様より、約十五分間に亘りご挨拶がありました(第39巻第12号参照)。

大教会長様は、今日の決起の集いを迎えるに至った身と心の歩みについて回顧され、引き続き、迎える仕上げの年の実践項目をご発表、決意を新たにされました。

続いて、二宮勝己先生(中和部属瀬戸路分教会長・本部布教部講演講師)より記念講演がありました(第39巻第12号参照)。

二宮先生は、聴衆への一方通行の講話ではなく、巧みな話術で聴衆を引き込み、拍手をさせたり、返事をさせたりしながら、面白可笑しくお話しください、親神様・おやさまの親心の程をお聞かせくださいました。

定められた四十五分の時間も、講師と聴衆が一体となる中、アツという間に過ぎ、先生のお話して胸襟を開いた参拝者は、通り来た二年間の思いを募らせながら、陽気心も一入に、晴れ晴れとした心で、総立ち十二下りてをどりまなびをつとめました。

時刻はすでに午後一時。足の不自由な方が座つて共々につとめられる姿も見受けられ、皆、意気軒昂としてお歌に唱和していました。しばし、腹の虫を黙らせて、どうにか最後までつとめ了えた参拝者は、今日の日を十分に意義あらしめ、心新たに仕上げの年を迎えることができたことでしょう。

てをどりまなびをつとめ了えた参拝者は、参拝場横に設けられた特設ステージで熱演される天中軒鵬さんの歌

謡ショーを堪能しつつ、ささやかなお弁当で腹の虫をあやして、二年間の勞苦を癒しました。

「決起の集い」は、三年千日の二年目をつとめ了えた喜びの打ち上げ花火

で終わることなく、むしろ、仕上げの年の始めに当り、もう一度それを振り返っては、思いを新たにすべき二里塚になったことでしょう

司会 あいさつ

只今は、喜びいっぱい、一手ひとつに勇んでをどりまなびをつとめさせて頂き、親神様・御存命の教祖も私達のこの姿を御覧下さり、さぞかしお勇み下さっていることと思ひます。さて、いよいよ私達は、来年十一月大教会創立百十周年を迎えさせて頂きます。先ほど大教会長様より、仕上げの三年目の実践項目をご発表頂き、皆様方には新たな実践の決意をなされたこと拝察致します。笠岡大教会、初代会長上原さく様、そして先輩諸氏が、どんな中も教祖ひながたを慕うて懸命にたすけ一条の道をお通り下されたればこそ今日の笠岡の道がございませぬ。又、ご挨拶にもございましたように「笠岡の道は、歩いて〜ついた道」とお聞かせ頂きました。

後に続く私達は、このことをしっかりと肝に銘じて、先人のおたすけに掛けられた厚き情熱に負けず劣らずの心意気をもつて、歩いて〜、「笠岡の人はなんと色の黒い人ばかりでしょう」と云われるぐらい歩かせて頂き、私達の身の回りで、身上に苦しみ、事情に悩んでいる大勢の人々に、たすけ心をもつて、教への理を、おさづけの理を、しっかりと取り次がせて頂くうではございませぬか。

笠岡につながる八千人のよふぼくが、「私がやらねば、俺がやらねば、誰がやる」の気概をもつて、今こそ世界だすけの使命感に燃えて、総決起する時ではないでしょうか。

この旬に笠岡大教会に大きなたすけの渦が巻き起こるべく奮起させて頂きましょう。そして来年十一月二十九日親に心からお喜び頂けるような意義ある記念祭を迎えさせて頂くうではございませぬか。

さあ、皆さん一手ひとつに勇んでつとめさせて頂きましょう。



祭典は30分繰り上げて始まった



マイクロバスでの参拝者も……



障子は外され 参拝者であふれる



完遂の喜びを述べられる大教会長様



講堂のモニターで参拝する人々



まなびの地歌にも力が入る



だんだんと話に熱が入る二宮先生



扇の手も揃って壮観の参拝場



青年会員が先頭に立って……



階段でつとめる参拝者も……



講堂では子連れも安心して……



司会の言葉に胸を熱くする参拝者



幼子も「なむてんりわうのみこと」



いつもより気合の入る天中軒さん



好天下に 急きょ シートを拡げて

修養科生の声

かよひ道

高木 由理子

10月吉日 ハッピーマンデーのおかげでのんびり過ごしていた3連休のある朝のこと。

「ちよつと修養科にでもお世話になろうかな。」何気なく口にした一言だったが、この時から始まっていたのかもしれない。

11月吉日 下旬とは思えない好天の中おちびに帰らせて頂く。自分で修養科に入ったつもりだったが、神様に引きよせられたことを教えられ、つもりがいに気付いた日。

12月下旬 「何事も素直な心で」と教えられ、口では「ハイ」と応えても心で舌を出している時があり、神殿でお詫びばかりする日々。

12月中旬 「神の恵みに感謝すれば報恩せずにはいられない」と教えられ、ひのきしんの意味あいがわかったような気がして、なんでもささせて頂くこと勇んだ気持ちわいてくる日々。

12月下旬 「身上の受けとめ方」について教えられ、今までずっと抱えていた不足心がようやくゆき、心がだんだん軽くなってゆく日々。

ひのきしん 「修養科とはかくひのきしん」とは誰もが口を揃える言葉で正にその通り。忙しいながら楽しいのは、期やクラスに関係なく知り合い、話せるチャンスだから。「笑い屋」と呼ばれるぐらい笑っていけば、まわりもつられて笑いだすから不思議だね。

一言小話 夕づとめの後に教養掛の先生から数分間のお話を聞かせて頂く。その時々的心向きに添ったテーマで気付かされ反省させられる。迷った時にこの一言語録を読み返してみると、心に染み込む一言がそこにある。

何はともあれ縁あつて集まった716期8名は、教養掛の先生方や詰所の皆さまに見守られ、日々教えて頂きながら和やかな雰囲気の中で過ごしている。修養科を無事修了する頃にはおちびで育まれたかけがえのない実を糧にして、私たちは種蒔きに励んでいるでしょう。



素直に生きる仕上げの年

輝美濃分教会長 谷内 伸 自

八年程前、岐阜教区書記代行をつとめさせていただいた時、いつにも増して教会事情願書があり困惑した事を思い出します。

三ヶ月の間に十五件程あり、月末から月初めにかけて連日教区長のお伴をして視察に出かけておりました。行先々の教会で教区長が必ずおさとし下さる言葉が今でも私の耳に残っている。「私にできる事でしたら何んでもさせていただけます、と言われる人があります。一見素直な人だなあと考えるが、裏を返せば、私にできない事は何もありませんとも受け取れる。これでは本当の素直ではありません。」とニコニコされて言われていました。

私自身も胸に手を当ててみると、全てがそうでなかったかなと反省させられました。

大教会初代会長様が昼夜を問わず歩いて歩いたられた道があったからこそ四百キロ離れた岐阜の地で結構をお見せ頂いている。

今は亡き古老の先生から聞かせていただいた話に「笠岡が芦津から分離する時、今ではとても考

心の通ひ路

Leader's Min-Tsuan

えられない荷物を背負わせてもらった。しかし誰もできるとは思わなかった事を部内先々が必死に担いだから今があるんだ。」

創立百十周年記念祭に向つての三年千日、大教会長様からお打出し頂く実践項目。心さえ動けば何んら難しい事はないと思います。今年も角目は昨年の延長で、仕上げの年にふさわしく、にをいかけの実がおさづけの取次ぎであり、陽気ぐらし講座開催、一万人おぢばがえりです。やる前からこんな事できないと思うのではなく、やってみなければわからない、の勇み心で日々汗をかかせてもらいましょう。今までが出来てないと思われる人は、前真柱様が時々仰有つたお言葉に「今からでも遅くない」とお聞かせ下さいました。親心をしみじみ感じさせて頂きます。.. 樂々の中に樂はない、苦の中に樂がある。の先祖のお言葉を信じて、十一月二十九日まで苦勞を重ねてみませんか。



コアラとマングース

高屋分教会役員 武内清明

師走慌ただしい十二月二十三日、従兄の結婚式に出席させていただいた。新郎(四十六才)新婦(三十五才)。世に喧しい芸能界を思わせる結婚年齢である。その従兄は歯科の開業医である。彼のお父さんは他人から、仏さんに砂糖をまぶしたような、と言われ、その血を受け継いで彼も温厚そのものに腕が良い。彼が実家近くに開業するや、瞬間に近辺の歯痛に苦しむ老若男女を根こそぎ奪い去つた。結果、彼の町内には他に歯科医院は見あたらない、らしい。今やその年収は遠く天理教徒の考えの及ぶ範囲ではない。その彼がこの歳まで結婚しなかつた。親族一同の七不思議の一つであつた。いつしか彼の結婚のことは、皆口にしなくなつていた。ところが先の十一月末、彼の親と、思い当たらぬ名前との連名で封書が届いた。その所に寿のシールが貼つてある。葬儀のお返しではないのは明らかだつた。あの家で誰が結婚するんだとちよつと考えたが、忘れていた彼の顔が浮かんできた。

式当日は、冬の中休みといった晴れやかな暖かい陽射しに包まれていた。式は滞りなく終わつた。式の最後を飾り彼は「僕は若いとは言えません。しかし今まで結婚を焦りませんでした。それ故に最良の伴侶を得ることができました。」と今時の

薄っぺらい若者からは聞くことのできない挨拶をした。最高といわず最良といった言葉に彼の人格を感じた。式を通して、新郎の友人知己はもとより新婦の縁ある人たち、今まで新婦を取り囲んできた人たちの人柄を垣間見させていただき、彼のお嫁さんの一番大事な部分がわかるような気がした。あのすばらしい彼に相応しい相手がやつと現れた。本当に嬉しく思つた。縁とは不思議なもの。切つ掛けは見合いであれ恋愛であれ、成り行きであれ、できちゃつたであれ、遍く夫婦とはそれなりに釣り合いのとれた二人である

と常々思う。コアラとマングースが結婚したという話は聞かない。そこに自らの好み、親の希望を越えた何か大きな力が確かに働く。それはそれぞれの持つ徳分であり、前生のいんねんであろう。袖摺り合うも他生の縁と云うが、今生の組み合わせはすべて前生の絡みである。六十億の中のたつた二人の組み合わせである。大切にしたいご縁である。彼の結婚式はキリスト教式で行われたが、神父の言葉が耳に残る。

「神が引き合わせたものを、人間がきつてはいけない。」



問われる意識変革 ——問われる宗教の真価

東悠分教会 田林宏章

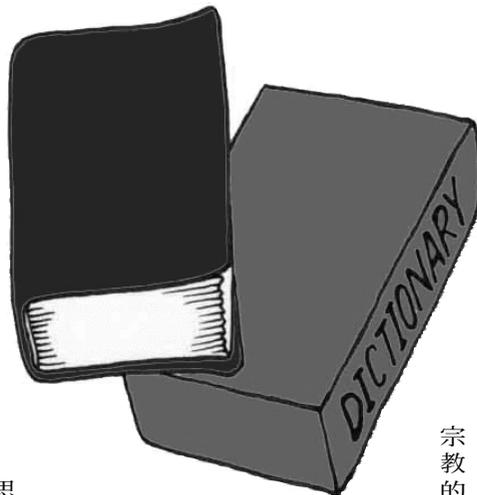
(本部海外部翻訳課勤務)

ここ数年思い続けていることの一つに、現代という時代をいかに認識するかという問題がある。敗戦後、日本は高度経済成長をなし、その結果、現代においては堂々たる経済大国となった。人々はかなりの程度まで物資的繁栄を享受できるようになった反面、精神的貧困および道徳的価値観の喪失が深刻な社会問題を惹き起こしている。世界を見渡しても、グローバル化が急速に進展する一方、宗教や民族に絡んだ紛争は絶えず、時代は混乱の度合いを深めているように思われる。今、どうやら地球規模における大きな変革の時代を迎えていると言える。

確かに、現代という時代は後世の人々に地球的規模における変革の時代と呼ばれる可能性は高い。産業革命の現代版とも言えるIT(情報通信)革命の急速な進展等により、旧来のパラダイム(思考的枠組み)が次々に壊され、時代のトレンド(趨勢)は、現状維持から創造・変革へ、組織(全体)から個人(個)へ、ハードからソフトへ、平等から公平へ、と根本的変革を促している。このトレンドは経済を中心として進展しつつあり、国民の意識・生活様式までをも大きく変えようとしている。

歴史を振り返ると、時代の変化は一定ではなく、急激に変化する節目となる時代がある。日本の場合、明治維新にその例を見ることができ、変化したのには向かうべき目標があることが大切となる。明治維新であれば、それは欧米先進諸国を目指し、近代国家日本を築き上げることであつたろう。では、現代日本の場合、向かうべき目標とは何であろうか。追いつくべき理想的先進諸国はもはや存在しないと云つても過言ではない。即ち、自らがパイオニアとなつて道を切り開かねばならない段階に入ったと思われるのである。その道とは、単に利便性に富んだ物質的繁栄ではないこと、言うまでもない。この種の繁栄は既に大方達成し得たと言える。そうではなく、精神的繁栄への道である。そしてこの繁栄は、物質的繁栄を否定するものではなく、物質的繁栄をも内包した精神的繁栄である。この繁栄の基礎をなすものこそが宗教であり、宗教が提示する世界観・価値観であると考えられる。混乱する現代社会及び個人に対し、宗教的世界観・価値観に基づく具体的メッセージを提示することができるか否かが、今、宗教に問われている。即ち、人々が陽気に暮らせる豊かな社会を築くための指針が、

時代的要請として宗教に問われているのである。この問いにはたして答えることができるか否かは、宗教の存在価値そのものに関わることであり、また、宗教に関わる者すべてがこの問いに答える責務を負っている。



宗教的真理の根本は不変である。しかし、時代は常に変化し、人々の考え方も変化する。それが故に、時代に応じた真理を具体的に説き分ける努力が要請されるのである。今、宗教に携わる者は、信仰心を基に大いに

思索する力が求められている。

即ち、天理という宗教的真理を基に、それが現代に生きる人々が抱える問題解決につながるように深く思索し、具体化し、実践し、パイオニアたるあらしきようとして新たな道を切り開いてゆく覚悟が求められているのである。時代そのものが宗教的世界観・価値観を必要としている現代にあつて、宗教が真に価値あるものであることを証明するのは信仰者一人一人であり、智慧ある信仰の力でもって二十一世紀を物質と精神を調和させ得る希望の世紀とすべく、自己変革と挑戦を新年の目標として掲げたい。

即ち、天理という宗教的真理を基に、それが現代に生きる人々が抱える問題解決につながるように深く思索し、具体化し、実践し、パイオニアたるあらしきようとして新たな道を切り開いてゆく覚悟が求められているのである。時代そのものが宗教的世界観・価値観を必要としている現代にあつて、宗教が真に価値あるものであることを証明するのは信仰者一人一人であり、智慧ある信仰の力でもって二十一世紀を物質と精神を調和させ得る希望の世紀とすべく、自己変革と挑戦を新年の目標として掲げたい。

アルバイトを通して

雲東分教会

三代 あゆみ

(天理大学生)

私は今レストランでアルバイトをしている。送り迎え付きで、ある日同じレストランのおばさんと一緒になった。その車の中でおばさんがこんなことを言った。「天理教の人は口ばっかりで何にも知らん。だからあたしは天理教は嫌いや！」おばさんの話によると、今家に若い天理教の子が来ていて、どうやらその子の事らしい。私は「へえ……」と曖昧に答えることしかできず、そのまま車を降りた。

又別の日、同じアルバイトをしている私の友人が事情あって車を途中で降りしてもらったことがある。彼は何度もお礼を言っ而降り、その後も深く礼をして車を見送った。それを見た車内の人達はこう言った。「わあ、まだ礼してるで！天理教のアレみたいやな。えらいなあ！」

私はそれを聞いてとても嬉しくなった。..礼..

という何気ない動作、あたりまえの動作一つでもにをいげけになるんだと強く感じたからだ。

レストランのアルバイトを初めて間もない頃、



私は..挨拶..と..愛想..と..仕事を代わる..ことを注意された。挨拶は大きな声で誰にでもすること。接客は常に笑顔でいること。先輩(ここでは社員の方)の仕事なるべく代わること。この三つをこんなことと注意され、落ち込んだことは言うまでもない。「これは全部当たり前前の事やからできなあかんで。これも社会勉強や。」当たり前前の事もできていない自分が情けなく、恥ずかしかった。それ以後、負けず嫌いな私はその三つを特に気をつけて行動に移すようにしている。

一番初めのおばさんの言葉は、私の様な当たり前の事ができていない子を見ての発言だったのではないだろうか。自分ではしてるつもり、事でもできていなかったりする場合もある。そんな自分の行動一つで天理教の総評価に成り得ることを考えると、どれだけ日々の生活、普段の行動がにをいげけになってるか改めて強く感じないわけにはいかな..い。「口ばっかりで何にも知らん」と言う言葉は、もしかすると神様が私に言われている事かもしれない。

おちばで生活し始めて約五年がたつ。その中でお道の事をより深く色々と見聞き体験させて頂く機会も、有難い事に沢山ある。そして自分はその行動に移せていたのだろうか

おちばで生活し始めて約五年がたつ。その中でお道の事をより深く色々と見聞き体験させて頂く機会も、有難い事に沢山ある。そして自分はその行動に移せていたのだろうか

考えると、まず、当たり前のはずの..挨拶..からきちんとできてはいなかったのだ。様々な事を学ばせて頂く中で、あれが大事これが大事と、口では言っているけど、大切な事を行動できないでいては何も伝わらなくなり、意味がなくなる。私はアルバイトを通してその事に気づかせて頂いた。

おちばにいて聞かせてもらったお話に、「日々の理づくり、徳積みが大切」というのがある。これを聞いている時は、具体的にどうしたらいいのだろうかと考えていたが、実はそれも簡単なことから始められるのではないかと今では思う。日々の..挨拶..や..笑顔..、人に喜んでもらえる..行動..は、簡単な様で難しく、しかし一番身近なことであり、「理づくり・徳積み」といわれる事の最も基本なのではないかと、自分なりに思ってみる今日この頃である。

計 報

酒本喜之氏

鶴南分教会長

十一月二十九日出直されました。
享年 七十八才

十一月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様の慈しみ深く限らない親心と自由の御守護によりまして日々は結構に恙なくお連れ通り頂いております事は誠に有難い極みでございます。しかるにその理がわからず心のほこりが積もり重なりシミとなり因縁となつて我が身に我が心に苦しまなければならぬ人が多くいますことは誠に申し訳ない次第でございます。身上事情にお手入れを頂きおたすけによりこの道にお引き寄せ頂いた私共お互いは親神様の自由の御守護にふれお聞かせ頂いたお話の中に親心を悟ると共に我が身我が家の因縁も悟り助けて頂いたご恩報じの思いと共に因縁納消の道はこの道しかない。と朝夕に御礼申し上げつつたすけ一条の上に邁進させて頂いております。

その中に今日の吉日はこれの大教会の十一月の月次祭を執り行う日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同心を一つに睦び合わせて明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめさせて頂きます。

御前には今日の日を楽しみに寄り集い日頃のご高恩に改めて御礼申し上げる皆の眞実の状をご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

さて笠岡では来年の創立百十周年記念祭に向け「諭達を實踐し、をやの理を戴こう」を合言葉に三年千日仕切つて成人の歩みを進ませて頂いておりますが二年目の実践項目として「つとめに専心」「百万軒にいがけ」「陽気ぐらし講座開催」を申し合せて実動を進めてまいりました。加えて是非とも記念祭の一年前に当たる今日の日を決起の集いを開催しそれまでに実践項目の完遂をしようと申し合せて勤めさせて頂きましたところ皆が一手一つの心で勤めることが出来ましたのでここに完遂の報告をさせて頂きます。誠に有難うございました。そして今日の祭典に引き続き決起の集いをさせて頂き完遂の喜びを分かち合うと共に百十周年に向けての気持ちも新たにさせて頂く所存でございます。どうぞこの上は百十周年に向けより一層成人への前進が出来ますようお導きの程をお願い申し上げます。

又本年残された後一月余りの間年頭の心定めを改めて想い起こしその完遂をも目指して精一杯勤め切らせて頂く覚悟でございます。

何卒親神様には旬の声に添い何でもどうでもの思いで勤める皆の眞実誠の心をお受け取り下さいます。ましてたすけ一条の上に自由の御守護と旬に相応しい心の成人をお見せ下さいましてお望み下さる陽気ぐらしの世の状に一日も早くお導き下さいますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます。

ふたこと みこと

立教一六四年の新春を迎えおめでとうございます。昨年をふり返つてみると、お道の上にも大変な出来事が起りました。又日本中に戦慄の走る事件が続きました。一体どこがどう狂つたのでしょうか。事件が起る度にあらゆる評論家、教育学者、心理学者、行政の担当者等があらゆる角度からマスコミを通じて話していました。

そんな中、元岡山大学長 大藤眞先生の談話があります。二十世紀の教育を振り返るとき、戦後の教育改革(昭和二十二年)について失敗と云わざるを得ない。(中略)教育は知育、体育、徳育で成り立つ。だがわが国の戦後教育は知育に偏り徳育が忘れ去られた。人道教教育を十分に受けていない大人が増え、その大人が子供の虐待などという異常な事件を起している(中略)最近の学生像も道義を知らない上個人主義の傾向が強まっている。ITの進展が人の心に及ぼす影響が出てくるかもしれない。いづれにせよ二十一世紀は経済立て直しもさることながら、人間の心の立て直しを図らなくてはならない。もう一人、この人の意見も聞こう。岡山市円山の古刹 曹源寺(岡山藩 池田家の菩提寺)の原田正道住職の話「仏教をはじめとした 伝統的な精神的背景は軽視され心の豊かさや 人間の在り方生きることの意味といった内面の問題は放置されたままだ。二十世紀とは 自己を確立する 内なる知恵」を無視し続けた近代以降の歪さが表面化した時代でもあ

十二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様の親心溢れる御守護お導きのまにまに立教百六十三年の今年も早あと十日を残すのみとなりました 改めて今年一年を振り返つてみますと昨年の論達巡教やようぼく躍進地方講習会を受け今年には年頭に当たり真柱様からよふぼくのより活発な活動をお促し下さいました 加えて笠岡創立百十周年に向かう三年千日二年目の年として昨年に増す成人への歩みを促すべく「つとめに専心」「百万軒にをいがけ」「全教会で陽気ぐらし講座開催」の三つを実践項目に掲げ成人への道を歩み出させて頂きました 最初はゆるやかな歩み出しではありましたが気温の上昇と共に意気も上がり実動するよふぼくも徐々に増えてより勇んで勤めさせて頂くことが出来ました お陰で昨年同様十月末には百万軒にをいがけも達成させて頂き陽気ぐらし講座の開催も数件を残すのみとなり十一月の月次祭には完遂の報告をさせて頂くと共に創立百十周年決起の集いも合わせて実施させて頂いて共々に喜びを分かち合わせさせて頂き仕上げの年に向けての誓いも新たにさせて頂くことが出来ました 重ねて御守護お導きの程を御礼申し上げますので只今から師走の慌ただしさも厭いませず今日の日を楽しみにより集いました理に繋がる道の子供達と相共におつとめ奉仕者一同感謝と喜び心も一入に陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 皆の今日に寄せる真実の心をご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて世上にては金融関係や大型店舗の破綻や犯罪の凶悪化低年齢化などが目立ちより不安を募らせているのが現状であります こういう中だからこそよふぼくとしての自覚と実動が求められている事をしっかりと心に留めてよふぼく一丸となつてますますすけ一条に邁進させて頂く覚悟でございます

何卒親神様には届かぬながらも親孝心一筋に精一杯勤める皆の誠真実をお受け取り下さいまして万たすけの上に自由の御守護を賜ると共に新世紀の始まりと言われる新しい年を希望と喜び一杯の心で迎えられるようお導きの程一同と共に慎んでお願い申し上げます

つたのではないか。(中略)物質文明の高度化は進む一方であり、その中で人はどうあるべきか、自己の内面を見つめ深める心の教育なくして幸福な新世紀はあり得ないと思えてならない」と。

お二人は共に、心の問題、をとりあげておられる。さて、ふり返つて私達道の用木の心の在り方は――、

論達第一号には

「なさけないのよにしゃんしたつても

十一 90

人をたすける心ないので

人をたすける心は、何よりも親神様の思召に適う誠真実である。教祖は、このたすけ一条の道の上につとめとさづけを教え、また、自ら身を以てひながたをお示しされたばかりでなく、今もなお、存命のお働きを以て私たちをお導き下されている。(中略)

我さえ良くば今さえ良くばの風潮に流れ、また、夫婦、親子の絆の弱まりは社会の基盤を揺るがしている。まさに今日ほど、世界が確かな拠り所を必要としている時はない。(中略)よふぼくお互いは、その使命を自覚し、勇気を奮つて人々の心の扉をたたき、心の闇を開くべく努力を傾けよう」とお示し下されている。

前述の二人のお話、――ではその心をどのように立て直しするのか、具体的な姿が今ひとつ見えてこない――。

しかし、論達にはより具体的に用木たる者の歩むべき道が示されている。

新しい世紀の始まりに、これからの百年を、私達用木はどのように歩めばいいのか、今一度論達を精読し実行に移さなければならぬと思つ。

コップの中で満足している時ではない。

歳晚祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様の子供かわいい一条の親心による御守護とお導きを頂戴し日々結構に恙なく生活させて頂く中に今年も早やあと数時間を残すのみとなりました 思い返してみますと今年は政治と経済に混乱を極めた一年でありました 又それに誘発されたように犯罪の凶悪化が進み「たんととをんかかさなりそのゆへハきゆばとみへるみちがあるから」とのお言葉の真意を垣間見るような出来事も多発したのでありますすがその中にあつても親心は変わらさずむしろ一条の親心をより深めて下さつたように思います 私共はその思召に少しでも添い成人を早めたいとの思いから三つの実践項目を定め実施してまいつたところ全てやりとげる事が出来ましたので大変喜ばせて頂いております 改めて今年一年のお礼を申し上げますと存じまして只今から歳晚祭を取り行なわさせて頂きたいと存じます 寄り集う皆の真実の状をご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて来るべき年は二十一世という百年単位での始まりの年のみならず西暦三千年に向けての千年単位での始まりの年でもありますのでそれにふさわしい伏せ込みが出来るよう一歩ずつ確実な歩みを進めさせて頂く所存でございます

何卒親神様には皆の喜び一杯の心をお受け取り下さいまして明るく喜びに満ちあふれた立教百六十四年の新年を迎えさせて頂きますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

元旦祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様の御守護とお導きのまにまにここに芽出度く立教百六十四年の新年を迎えさせて頂きました 一同と共に心より御礼申し上げ新年の御挨拶を申し上げます

明けましておめでとうございます

昨年賜りました御守護の数々に御礼申し上げますと共に今年も一年間かわい一条の変わらぬ親心と御守護をお願い申し上げますので只今から寿ぎ心を一つに睦び合わせて明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめて元旦祭を執り行わせて頂きます 御前には寒さ厳しき中をも厭わず夜も明けきらぬ内から寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し同じ思いで伏し拝む状をご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて本年は世上では新世紀の始まりの年という事で少しでも明るい年にしたいとにぎわいの様相を呈していますが私共は「よくにきりないどろみづやこころすみきれごらくや」とのお言葉をしっかりと心に治め目先の明るさに心奪われることなく心から湧き出る本当の明るさを目指して笠岡創立百十周年記念祭に向けしっかりと真実の伏せ込みをさせて頂く所存でございます その為の実践事項として「おさづけの取り次ぎ」「百万軒と陽気ぐらし講座」「一万人のおぢばがえり」の三つを申し合わせさせて頂いております 三年千日仕切つて歩んで来た仕上げの年になるよう一手一つに心を結び合つてたすけ一条に邁進させて頂く覚悟でございます

何卒親神様にはたとえ牛歩の歩みではあつても確実に成人へと進む皆の真実の状をお見守り下さいまして至らぬ点は幾重にもお仕込み下さり成人の旬には自由の御守護をお現し下さいまして仕上げの年ならではの心の成人が出来ますようお導きの程を一同と共に謹んでお願い申し上げます

第 7 1 9 期 修 養 科 募 集 要 項

* 修 養 科 期 間

立教164年3月1日～5月27日

* 教 養 掛

3ヶ月間 岡 本 久 善 (大教会役員・摩耶分教会長)
 1ヶ月目 山 野 弘 実 (上 下 分教会長)
 2ヶ月目 雑 賀 明 (照 雲 分教会長)
 助手 猪 原 啓 文 (真 金 分教会)
 3ヶ月目 藤 本 芳 久 (東水島分教会長)

* 募 集 要 項

- ・ 志願者は、3月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を経由して大教会に順序参拝すること。
- ・ 2月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・ 3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、5月29日の昼食後に解散。

* 教 科 書 (必 須)

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』、『よふぼく手帳』。

* 参 考 書 (出来れば持参)

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』(笛・打楽器または三曲)、『おやしき・史跡案内』。

* 携 行 品

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛(男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ)。

* 服 装

ハッピー及び帯・バンド、長ズボン(又は、それに類するもの)、靴。

書 類	大教会	詰所	備 考
「順序参拝票」	○	○	
「別 席 願」	○	○	・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。
「席 札」		○	
「別席のしおり」	○	○	・願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○		・おさづけの理拝戴願の順序参拝も合せて行なう。
本 部 御供		○	・「別席の誓いの言葉」は別席の誓いの日までに覚えること。
「おさづけの理拝戴願」	○	○	・「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後におさづけの理を拝戴する者のみ。
「おはなし」	○		
大教会 御供	○		・願書に日付を入れない事。
本 部 御供		○	
「修養科入学願」		○	・御供は任意であるが、慣例により、200円以上。
「修養科入学事由書」		○	
修養科入学御供	○		
「住民票」または「戸籍抄本」		○	・「戸籍記載事項証明書」、「身分証明書」でもよい。

立教164年 定期巡教表

教会名	巡教月日	巡教員	教会名	巡教月日	巡教員	教会名	巡教月日	巡教員
廣 町	2月13日	大教会長様	香地華	3月 9日	大教会奥様	品 治	2月 7日	門脇誠教
福 廣	2月 7日	大教会長様	真 金	2月11日	田中一之	久 福	2月 8日	武内清
福 勇	2月11日	上原繁道	仲 條	2月 8日	吉岡 壽	呉 福	2月 5日	大教会長様
福 芦	2月 9日	岡本久善	稲 倉	3月13日	大教会長様	久 津	2月 9日	上原繁道
福 満	2月 8日	中村 剛	稲 瀬	2月 5日	岡本久善	鶴 南	2月 8日	大教会長様
福 岩	2月12日	河原節喜	稲 富士	2月15日	上原繁道	鶴 眞	3月10日	大教会奥様
西 村	3月10日	中村邦義	稲 讚	2月10日	中村 剛	川島郷	2月10日	上原繁道
福 年	2月 7日	大教会前奥様	門司港	2月12日	大教会長様	鴨 方	3月 6日	佐藤道孝
引 野	3月 6日	吉岡 壽	大恵山	2月12日	大教会前奥様	作 備	3月 6日	大教会前奥様
福 昭	2月11日	武内 清	東水島	2月10日	大教会前奥様	輝 華	3月13日	岡本久善
福 春	2月 5日	武内 清	高児島	2月 5日	大教会前奥様	錦ヶ原	3月 3日	佐藤道孝
福 中	2月12日	門脇誠教	出 雲	3月11日	岡崎輝夫	行 藤	2月11日	岡本久善
福 富士	2月10日	武内 清	瑞 雲	3月 6日	中村 剛	眞 府	2月 9日	中村邦義
福 東	2月 9日	大教会奥様	海潮川	3月 8日	中村 剛	吉 舎	3月 4日	吉岡 壽
東福山	2月 6日	河原節喜	錦 洋	3月14日	大教会奥様	清 嶽	3月 5日	大教会前奥様
福 南	3月13日	門脇誠教	米 府	3月15日	大教会奥様	上小畠	3月10日	上原繁道
福 順	2月11日	吉岡 壽	弓ヶ濱	3月 8日	大教会長様	木津和	3月 6日	武内清
福 節	3月 8日	河原節喜	西 伯	3月 9日	大教会長様	國 須	3月 7日	武内清
福 備	2月 3日	中村 剛	米 美	3月 5日	上原繁道	上吉野	3月12日	門脇誠教
福 輝	2月13日	門脇誠教	伯 仙	3月10日	佐藤道孝	上 備	3月 8日	中村邦義
坪 生	2月 5日	中村邦義	照 雲	3月 6日	上原繁道	河 佐	2月 4日	大教会長様
八 尋	2月10日	中村邦義	輝 伯	3月 3日	中村 剛	上川邊	3月12日	大教会長様
深 安	2月 6日	門脇誠教	松 都	3月 7日	中村 剛	甲 井	3月 6日	大教会奥様
笠 尋	2月 3日	岡本久善	樺 島	5月 3日	大教会前奥様	上 父	3月 7日	吉岡 壽
芦 品	2月13日	田中一之	亀田山	3月12日	田中一之	阿木行	3月 2日	大教会奥様
安 那	2月 8日	佐藤道孝	出雲川津	3月10日	大教会長様	宇津戸	3月 5日	大教会長様
芦田川	2月 3日	吉岡 壽	天場山	3月 8日	佐藤道孝	河 面	3月 8日	武内清
三 郡	2月10日	大教会長様	簸ノ川	3月10日	岡崎輝夫	府 鮮	3月13日	中村邦義
芦 常	3月 5日	中村邦義	多古浦	3月13日	田中一之	府世原	2月12日	田中一之
芦 辺	2月 9日	大教会長様	瑞 北	3月 9日	佐藤道孝	神 驛	2月 5日	大教会奥様
芦加茂	2月 6日	大教会前奥様	雲 東	3月11日	田中一之	神 免	3月 8日	大教会奥様
惠 陽	2月14日	門脇誠教	神 村	2月10日	大教会奥様	葦 沼	3月 7日	田中一之
陽 實	2月12日	佐藤道孝	呉 中	2月 8日	岡本久善			
御 野	3月 8日	吉岡 壽	大江橋	3月 5日	大教会奥様			